

## 伝えようとする気持ち

### <感情の表出>

スポーツの大会や授賞式の様子などを見ていると分かりやすいですが、私たちは、嬉しい時には喜びを爆発させようと飛び上がったり抱き合ったり、笑顔の他に体全体に感情が現れます。悔しい時には下を向いたり地面を叩いたり、怒っている時は相手に向かって大声を出したり手を激しく動かしたりします。悲しい時はうつむいたり手で顔を覆ったり…。気持ちが強く現れる時、気持ちをしっかりと伝えようとする時、人は表情の他に自然と体に動きが表れます。テレビに出てくる歌手の皆さんは、マイクを持っていない手が曲に合わせて動きますし、マイクスタンドを使う場合には体全体でアピールすることもあります。人と話をする時にも同様の様子が見られます。気持ちと体の動きは、その気持ちが強いほど連動するようですね。

### <音楽会ありがとうございました>

トップバッターの4年生が歌い出した時の声を聴いて、とても柔らかい声が出せるようになったんだなと思いましたが、その後に演奏した子どもたちも柔らかい声が出せていて、本校の子どもたちの歌声が変わってきているのを感じました。また指揮に合わせて楽器を演奏する時の体の動きと表情から、これまで時間をかけてみんなで積み重ね、会場に全力で伝えようとしているのを感じました。

- 「真剣に心を込めて歌う」
- 「他の楽器の音を聞きながら弾く」
- 「きれいな声を体育館中に響かせる」
- 「1つの音ごとに正確にたたく」
- 「みんなと心をひとつにして弾く」
- 「歌詞の意味を考えながら歌う」



様々な思いで当日に臨んだ子どもたちでしたが、そのことが形となって表れたのは、一つは演奏直後に会場に残る残響でした。わずか数秒のことですが、音の響きが会場に残るのが分かります。会場が静寂に包まれているからこそ感じられるのだと思います。もう一つは体の動きです。演奏する時は、気持ちが入ってくると自然に体が動くものです。子どもたちの、演奏に対する気持ちの入り方を感じます。いずれも真剣に伝えようとしている、真剣に聴こうとしているために生まれた状況でしょう。

本校では音楽会を、「保護者や地域の方々の協力のもとに創り上げる、壮大な『授業』」と位置づけています。単なる発表会ではなく、みんなで創り上げる「演奏会」にしたいと考えていたところ、当日はステージ上の子どもたちの演奏を、会場の子供たちや保護者の皆様、地域の皆様が一緒になって支えていただき、演奏会を創り上げていただきました。

- ・今までの中で最高の演奏をしようと、子どもたちは先生の指揮をしっかりと見つめて演奏している。
- ・一生懸命伝えようとして緊張感のあるステージになっている。
- ・口を大きく開けて歌い、自分たちの力を出し切ろうとしている。
- ・出演順が早く緊張する場面であるにもかかわらず、普段と同じように堂々と演奏している。
- ・音の強弱、フレーズの抑揚などを工夫し、一つ一つの音を大切にしている。
- ・会場が静寂に包まれて、演奏開始前、演奏終了後に緊張感が感じられる。
- ・指揮と演奏がかみ合い、演奏開始から終了まで迫力が感じられる。

会場の皆様が一緒になって音楽会を創っていただいたため、子どもたちは気合いが入り、心地よい緊張感を感じながら気持ちの入った演奏ができたのだと思います。来賓の方からは、「とても素晴らしい音楽会でした」「子どもたち、いい声をしていますね」「上手になりましたね」などの言葉をいただき、大変嬉しく思います。とても充実した時間でした。ありがとうございました。今後も、

- 「子どもたち、職員、保護者の皆様、地域の皆様、みんなで一緒に創り上げる音楽会」
- 「一つ一つの音を大切に作る音楽会」

「もてる力を100%出し切る音楽会」  
「『仕上げる音楽会』から『創り上げる音楽会』へ」  
を目指してまいりたいと思います。本当にありがとうございました。

○練習を踏まえてやったらとてもうまくいきました。音楽会で目指したことが合唱、合奏につながりました。合唱は富澤先生に言われたように、元気だけきれいな声で歌えてのでとても満足しました。合奏はみんなの音を聞いて自分から合わせようと思いながらやってみました。みんなが一つになって演奏していいなって思いました。28人が一つになって演奏できたのでよかったです。みんながとても楽しそうに演奏していたのでぼくはもう満足です。（5年生）



### <6年生の立派な姿>

ご報告が遅くなってしまい申し訳ありません。少し前の話題になりますが、10月2日・3日に6年生が東京方面へ修学旅行に出かけました。「笑顔いっぱいの修学旅行にするために、自分から考えて行動しよう！」のめあてに向けて、精一杯やり遂げようとする姿がたくさん見られた2日間でした。

#### <印象に残った姿>

- ・国会議事堂ではこまめに記録を取ったり質問したり、意欲的に学ぼうとしている。
- ・始めの会、終わりの会、お礼の言葉など、係が機能していてスムーズに進んでいる。
- ・児童に伝えたいことがあって探していると、その様子を察して、「校長先生、何かやりませんか？ 私が伝えます」と言って、該当児童を呼んできてくれる。
- ・次の会場に移動する時、テーブルからはみ出ている椅子を直している。
- ・東京タワーで、高い所が苦手な友だちを思いやっている。
- ・時間を見て、次の行動に遅れないようにしている。
- ・夕食時にバイキング形式の食事を取りに行っている間、誰もいなくなった席で留守番をしていると、先に食事を取りに行って戻ってきた児童が、「私がここにありますから校長先生（食事を）取りに行ってください」と言ってかわってくれる。
- ・海外の方にインタビューをする場面で、最初は緊張していたものの、自分から勇気を出して行き交う外国人に話しかけ、一生懸命情報を集めている。

.....

子どもたちが目標をもって修学旅行に参加している様子がよく分かりました。「笑顔いっぱいの修学旅行にするために、自分から考えて行動しよう！」というめあてが位置付いていることを感じた2日間でした。また、バスの中でガイドさんに歌をお願いしたり、騒いだりする時もあり、真剣に学習しようとする時もあり、切り替えが上手にできる子どもたちでもありました。「周りに迷惑をかけないようにする」「友だちのことを気遣う」といった相手を意識した行動が目立ちました。そのことが周りにも伝わっていくのですね。こうした姿は日常の生活の延長であり、普段の様子がそのまま出たのだろうと思います。大切なことが育っているなあと感心した次第です。また、6年生の普段の様子を必ず他学年の子どもたちが見ているはずで、頑張る姿は来年度のモデルとなり、きっと受け継がれていくことでしょう。2日間お疲れ様でした。

